

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	他スタッフの意見を取り入れながら責任者が作成している
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	0	5	他スタッフが行っている情報の共有不足がある
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	5	訪問先を広げ、重症心身障がいなど多職種の話を聞きに行く
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	5	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	送迎時一日の様子を確認。友達との関わり方を聞いている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	5	今後時間を作り小学校の先生の話の聞きに行く。放デイとの連携も必要。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	相談支援事業所や他事業所に出向き連携しています
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	イベントに行っても対応に必死で余裕が持てていない。今後もっと交流を図っていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2	2ヶ月に一度部会があり、少なくとも2人は参加しています
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	送迎時に親御さんとのコミュニケーションを取っている。そして共通理解を持つようにしている
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2	個人の知識がまだ少ない為今後勉強を重ねていく
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	全スタッフが完璧に説明できる訳ではないので、再度共通認識をする。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	内容の説明を更新月前にして、同意を得て支援している
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	まだまだ不足な面もありますが、親身に寄り添って相談に対応している
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	定期的に親御さんの意見をもとに意見交換の場を作る
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	相談があったら、すぐにスタッフに話して即対応できるように努めている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	会報等を発行しているが、まだわからない事がある為、周知していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4	1	個人ファイルなどは鍵付きの書庫に入れて保管しています
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	送迎以外に面談の時間を作っている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	地域で連携する為、緑区の事業所を集めた説明会:

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1		マニュアルを元に訓練を行っていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0		毎月避難場所に行ったり、室内でも訓練している
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1		見学時などに情報を聞き取り確認している
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0		指示書に基づいて対応している
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2		ヒヤリハット事例集を活用し、スタッフへもっと周知させていく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	0	5		話し合い程度で不足を感じるため、共有できる記録等が必要
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	3		理解を深める為、更に勉強をしていく必要がある

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。